

雪上で「体験の風」事業



スノーモービルに乗って駆け抜ける子ども達

モンデウスで80人が楽しむ

一之宮まち協だより

第46号

平成30年3月1日

一之宮町
まちづくり協議会
広報部

高山市一之宮町3087
電話 53-2424

「ふるさと探検」15名 サークルとして参加

2月17日の土曜日、モンデウススノーパーク位山周辺において、まち協青少年育成部主催の「体験の風事業」の一環として、スノークルージングと自然観察散歩が開かれました。

この事業には、サタデイサークル・ふるさと探検の児童15名が2班に分かれて参加しました。

スノークルージングでは、スノーモービルに付けられたゴムチューブに乗り込み、ダナ林道のコースのスリリングな走行を楽しみました。終点では湧水を飲んで、森の静けさなど自然を感じました。



冬の森の自然観察をする子ども達

自然観察散歩では、講師の一之宮支所の中島照雅氏から、木々や自然について説明を受け、また氷が張った池に入って遊びました。

また最後に、モンデウスのセンターハウスでの昼食後、スキー場でそり滑りも楽しみました。

全園児対象に実施 雪上の楽しさ知って

宮保育園の全園児がモンデウス飛騨位山スノーパークでスノー(雪上)クルージングを体験し、座布団そりとは違った雪上滑りの楽しさを満喫しました。

全園児対象のこの事業はまち協



「見晴台」で記念撮影する園児達

途中で山の上の「見晴台」から自分たちがいつも遊んでいる一之宮の街を見下ろすなどして遊んだあと、急坂を一気に下り歓声をあげていました。

体験では、園児達はスノーモービルに固定されたタイヤチューブそりに乗って、源流の森へ通じるコースの一部を一気に走り抜けました。

クルージングは年長から年少のクラスごとに2月19日と20日、22日と日を区切って行われ、1クラス4〜5人のグループごとに楽しみました。

の「体験の風」事業の一環として3年前から行われており、体験を通して子ども達の豊かな人間性を養い、郷土愛を育てようと企画されたものです。



雪山では転げまわって遊びました

一筆 啓上 気ままにエッセー



今年の二十四日市に、宮笠愛好会の会員の作った笠が、初めて宮笠として販売していただけた。会員の中には、宮村の頃の公民館講座で習った方から、宮笠愛好会ができてから習い始めた方までいろいろありますが、これまでに練習で作った何層もの笠とは、今回作った笠は重みが違うと感じていることと思います。

宮笠、指が覚えるまで練習

宮笠愛好会は、平成22年頃から活動を始めて、20名弱の会員が問坂義一さんに習いながら笠作りを練習しています。何年も作ってきていますが宮笠作りは難しく、特に「辻引き」といって笠を立体的に編みあげる工程や、ふち編みとふちを継ぐところが難しいです。問坂さんの作るのを見ているだけではなかなか笠作りは覚わりませんが、わからないところを会員同士で話し合い、試行錯誤しながら作るとうまくいくことがあり、仲間がいることも大切です。

今年の二十四日市には、私を含め会員の笠を宮笠として販売していただきましたが、一つ一つの工程をていねいに作っていないと、いい笠にはなりません。会員の間では、今年の二十四日市を第一歩として、ひと編みひと編みていねいに作って、指が覚えるまでたく

佐藤 功 さん (駅前)

さん練習しようと話し合っているところ。特に問坂義一さんと和彦さんに今習っているセミ笠は、これまで作ってきた宮笠とはかなり作り方が違うため、新人の気持ちで練習しています。いか満足いく宮笠が作れるよう、仲間とともに練習を重ねたいものです。

宮笠は、全国に誇れる一之宮町の宝物のひとつですが、町民のなかで習う方が少ないのが残念です。毎月第3月曜には公民館で例会をしていますので、もの作りや手仕事が好きな方は、ぜひ一度見学・体験をしに来て頂ければと思います。一之宮町全体で、宮笠を未来に伝えていけたらと願っています。



問坂和彦さんから宮笠作りを習う会員

話題のさんぽ路

宮笠愛好会の笠

「二十四日市」に並ぶ

飛騨の冬の風物詩『二十四日市』は、昔と比べて売られるものやお客さんの様子は変わってきていますが、変わっていないものに、わが一之宮町の宝物とも言える『宮笠』があります。

ご存知のように、木の性質を生かして編み上げた笠は、昔からその実用性の高さや美しさなどから、飛騨を中心として多くの方に使用されてきています。ただ製作には材料の準備から編む技術などのさまざまな制約もあり、後継者育成が課題となっていました。

そんな中、宮笠に惚れ込み、自分で作ってみたいという有志が集まり、平成23年『飛騨宮笠愛好会』を結成し、製作技術伝承者の問坂義一さんを講師に、技術習得を始められました。

はじめはなかなか思うような笠にならず苦労の年月が続いたようですが、最近ではようやく『宮笠』らしいでさええの笠ができるようになってきました。

そこで問坂さんから、今度の二十四日市で会員の笠を販売しては、と提案があり、会員の皆さんも発奮し、いつもより丁寧に笠づくりに取り組みました。

そして二十四日市当日、大雪警報が出され客の入り心配されるなか、会員の作った紅白、ヒノキ笠約30点が、問坂さんの作った笠と一緒に並べられ販売されました。息子の問坂和彦さんもセミ笠を携えて店頭に出たおられ、今年の二十四日市は、宮笠の製作技術伝承に明かりが見えた一日となりました。

宮笠愛好会は、まち協の助成を受けて活動されており、毎月の例会と冬季集中講座を実施されています。見学や入会希望を随時受け付けていることので、ものづくりに興味のある町民の方は、ぜひ一度見学してみたいかがでしょうか。

(宮笠愛好会事務局中島 TEL:090-4235-8894)



二十四日市に並んだ宮笠

位山句会作品より (二月句)

芽水仙苞を並べて浅葱色
 円空仏暗さになれし返り花
 春浅し雲の流れを風が追い
 本蓮の蒼拳りて天を指す
 吟声の松風に消え春浅し
 幼子と向き合ふかるた

四字熟語

しき 教子 喜栄 清子 八重子 基子

図書館案内



蔵書点検期間中はご不便をおかけしました。皆様にご気持ちよくご利用いただくため、書架づくりに努めてまいります。今後とも一之宮分館をよろしくお願ひします。

<今月の特集>

★「身体の調子を整えよう！」

寒かった冬が終わり、春がもうそこまで来ています。固まった身体をほぐすストレッチの本や、からだの中から整える料理の本を集めました。活動的な季節に備えて、身体を目覚めさせましょう。

★「季節の絵本」

ひな祭り、入園・入学の絵本を紹介いたします。

<おはなし会のご案内>

3月17日(土)午前10時30分～

スタッフによる絵本の読み聞かせ・手遊び。申し込みは不要です。お気軽にご参加ください。

3月～4月行事予定

3月

- 6日(火) 中学校卒業式
- 10日(土) サタディサークル閉講式
- 11日(日) 町民そり大会
- 20日(火) 町内会長・班長会
- 22日(木) 小学校卒業式
- 23日(金) 小中学校修了式

4月

- 1日(日) 春の環境整備
- 6日(金) 小学校入学式
- 7日(土) 中学校入学式
- 20日(火) まち協定期総会
町内会長・班長会
- 22日(日) 臥龍桜を語る会

ぼくのなまえ☆わたしのなまえ

みきと

幹人 くん 平成28年11月28日生まれ

お父さん: 小野 大介さん 《本通下》
お母さん: 小野 有花さん

お父さんが宮大工なので、神社やお寺にゆかりのあるものの漢字を1字使って、兄妹3人を名付けました。幹人は、ご神木のような大きな木の幹のように、強くたくましく周りを支えられるような人になってほしいと言う思いが込められています。いっぱい食べて、お兄ちゃんお姉ちゃん



にたくさん世話をやかれて、と～つても甘えん坊な幹人。周りの愛情もたくさんもらって成長しています。これからも幹人らしく元気にすくすく育つてね。お父さんとお母さんは子供達の成長が日々楽しみです。

お知らせ

◆リフォーム製品フェア開催!!

リフォーム製品フェアは、粗大ごみとして出された家具等の中から、まだ使用できるものを清掃・修理をし、格安の値段で提供します。

なお、同一製品に複数回の応募があった場合は、抽選にて決定します。



◇期日: 3月6日(火)～3月8日(木)

◇時間: 午前8時30分～午後5時

◇場所: 一之宮支所ロビー

◇抽選発表: 3月8日(木) 午後5時～

◆まちの博物館・特別展を文化交流館で開催

飛騨高山まちの博物館(高山市上一之町)では、飛騨山文化交流館・民俗文化資料交流室において、「冬季特別展・一之宮移動展」を開催します。

これは、郷土の貴重な歴史資料を収集している同博物館が、本市および飛騨の歴史・文化についてより深く学び親しんでいただく開催するもので、今回の一之宮移動展では、近年同博物館に寄附された資料のうち、土野家資料および原家資料の一部を展示します。

◇期日: 3月3日(土)～4月22日(日)

◇時間: 午前9時から午後9時まで(日曜・祝日は午後5時まで。月曜日は休館) ※入場は無料です。

◎お問い合わせ先 飛騨高山まちの博物館(電話: 32-1205)



御立物

◆一之宮町民そり大会

当日受付も歓迎

まち協体育部では昨年開催して好評だった「町民そり大会」を今年も行います。

プラスチック製のそりを使いタイムトライアルで競技します。

既に前月末で事前申し込みは締め切っていますが、当日受付もできます(ただし、当日受付は参加賞はありません)。

この冬最後の雪上ゲームに参加してそりの面白さを体感してください。

◇日 時: 3月11日(日)

◇会 場: モンデウススキー場

◇受 付: 午前9時までに

◇競技開始: 午前10時

◇宝探し: 午前11時30分頃

※参加者は手袋、ヘルメット着用で参加してください(ヘルメットの無い方は貸出します)。

詳しくは事務局まで(53-2424)

年齢	男性	女性	合計	前年増減
0～14歳	169	152	321	-15
15～64歳	678	693	1,371	-30
65歳以上	340	475	815	±0
合計	1,187	1,320	2,507	-46
世帯数	823戸			±0

一之宮町の人口情勢(人)

つぶやき……
「こんにちは」…と聞き慣れた声。いつも決まってこの時間にやってくる3歳の男の子。
お母さんと弟と一緒に。ジャンパーを脱ぐと大好きな恐竜の絵本を手にとった。
何度も何度も見返した、何度も何度もお母さんに読んでもらった恐竜の本。今日もお母さんに読んでもらいながら、小さな口から飛び出すのは難しい恐竜の名前。長くて難しい恐竜の名前よく覚えてるね、仕事をしながらクスツと笑う。
会話をしながら読み聞かせをしている様子は、とても微笑ましい。子どもにとって最高の読み手は、やはり母親なのだと思ってしまう。
「ありがと、ばいばい」と手を振る男の子。私こそありがと。幸せな気持ちももらったよ。
(本の宅急便)

節分祭に多くの人が参拝

「魔滅」な1年を

節分の祭事が2月3日に水無神社で行われました。

翌日は立春で、春を感じさせる日の日差しもありましたが、寒さは厳しいものがありました。今年は土曜日ということもあってか、多くの町民や飛騨各地、また、県外からの参拝者がみられました。神事後、氏子が扮した鬼も出てきて、豆まきの催事も行われました。

氏子総代の半数は4年間の任期を終えて、節分祭を境に交代されるそうです。今年度は大祭の中心となつて活躍されお疲れさまでした。

大豆は五穀のひとつで、魔の目（魔目）に豆をぶつけて魔を滅す

宮小6年生を送る会

1年から6年が感動の演技

2月23日に宮小学校で6年生を送る会が開催されました。5年生が中心となつて運営されたもので、6年生の保護者の姿も見えました。一人ずつ小さい頃の写真が映し出されたステージで、パフォーマンスをして席に着く6年生。とても頼もしく成長し、最高学年として宮小学校を引っ張ってきました。

会はゲームも交えながら行われ、1年～5年の発表は6年生への感謝の気持ちに溢れて素晴らしく、6年生もレミオロメンの「3月9日」の合唱で応えました。小学校生活もあと半月余り。こ



心を込めて演じられた6年生を送る会



豆まきの時には赤鬼も登場しました

る（魔滅）にも通じ、炒り豆が使われますが、「射る」ことで「魔滅」となるそうです。私も豆をいただきましたがとても年の数までは食べることができませんでした。（山腰）

の6年生を送る会の感動を胸に、4月には笑顔で中学入学を迎えてほしいと思います。

宮中が3年生を送る会

寸劇などで思い伝える

宮中学校の「3年生を送る会」が2月13日に一之宮公民館で行われました。

1、2年生が中心となつて企画したもので、メッセージなどを通じて、感謝や生徒会引継ぎへの思いが表明されました。

会には3年生の母親なども訪れ我が子の中学最後の発表を見守りました。

合唱や劇などが演じられ、特に2年生による劇ではお笑い芸人の「ブルゾンちえみ」も登場して盛り上がりました。

それに対して3年生は引き継いでほしいことを伝え、部活動や委員会活動への自分たちの思いを託し、ゆずの「友々旅たちの時々」を合唱して応えました。



送る会は寸劇で盛り上がりました

班単位でガヤガヤ会議

まちづくり計画に反映

まち協では今年度の事業計画にある「まちづくり計画」の策定に取り組んでいます。その基礎資料となる意見集約を図るため、班単位でのガヤガヤ会議開催をお願いしています。

ガヤガヤ会議では、地域で課題となっている様々な問題を自由形

式で話し合うことで、一之宮町で今後取り組まなければならないことを掘り起こすことになっています。その上で、それらを整理してビジョンをつくり、まち協が今後5年間で取り組むべき中期計画に盛り込むことにしています。

女性部が解散

今後は女性参画を新しい形で

まち協女性部が今年度限りで解散することになりました。

女性部は婦人会からの流れを引き継いで、名称も「社教女性部」、「まち協女性部」として長年に渡り地域の女性組織の中心として重要な役割を果たしてきました。

しかし、女性の社会進出や男女共同参画の動きなど、女性が男性と共に活動するのが当たり前となつてきた現在、メンバーが女性限定の組織が必要かという意見もありました。

現在、市内のまち協組織の中で女性組織があるのはおよそ3分の1で、各女性組織をまとめた市の連合組織は既に解散しています。

一之宮町のまち協女性部では、1月21日に歴代の女性部長に集まってもらい小野和栄部長ら役員が経過を説明した後、女性部の解散について意見を交換しました。

そこでは、これまでの女性組織が地域に貢献してきた活動を振り返る一方で、女性部を解散することに特に反対意見はなく、今後は違う形で女性パワーを発揮することを確認しました。

まち協では女性部解散を受け、平成30年度から本部役員の女性枠を新たに設けるなど、女性の参画を促して、女性の考えを運営に生かす体制の構築に取り組むことにしています。



部長経験者から意見を聞きました